

case.11

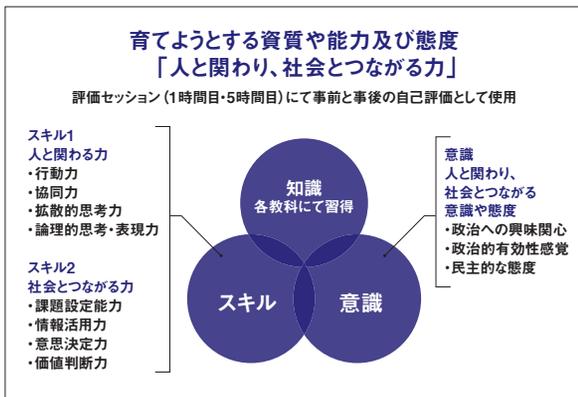
「人と関わり、社会とつながる力」をつける
シチズンシップ教育

神奈川県立湘南台高校



3年生の模擬裁判は桐蔭横浜大学の旧横浜地方裁判所陪審法廷(移築復元)を活用し、専門家から直接アドバイスも受ける

■「湘南ハイスクール議会」(模擬議会)でつきたい力



神奈川県では2011年度より、すべての県立高校で、自立した高校生を育成するための「シチズンシップ教育」を推進している。キャリア教育の「環」という位置づけで、政治参加教育、司法参加教育、消費者教育、道徳教育の4つの教育が柱だ。そんななか、湘南台高校は10〜12年度、県よりシチズンシップ教育の研究指定を受け全校を挙げて実施してきた。校内に分掌を超えた実践担当者会議を設置。12年度はキャリア支援グループの黒柳幸子先生、学習支援グループの黒崎洋介先生らが中心となって運営した。黒柳先生は、12年度新規採用の黒崎先生の指導教

官でもあったため、2人で毎日のように企画やアイデアを出し合うことで互いにブラッシュアップしていったという。同校ではシチズンシップ教育を、12年生は総合的な学習の時間を中心に、3年生は政治・経済を中心に実施。具体的には、オリジナルのプログラムを開発しながら、10年度は参議院選挙の模擬投票(全学年)、11年度は横浜弁護士会との連携

School Data

1985年創立 / 普通科 / 生徒数 831人(男子290人、女子541人)
／進路状況(2012年度実績) 大学 59.6%、短大10.2%、専門学校 23.3%、就職1.1%、その他5.8%

による模擬裁判(1学年)、桐蔭横浜大学との連携による模擬裁判(3学年)、その他講演会などを行った。これらは実際の参議院選挙、本物の法廷、実際に起こった事件など「本物」にこだわること、キャリア教育の「環」として、将来、裁判官や弁護士、検察官といった法曹界を目指す効果も期待している。

加えて12年度は、1学年の総合学習(5時間)での模擬議会「湘南台ハイスクール議会」を開発実施。「18歳選挙権」などのテーマを決め、与党と野党に分かれ委員会や本会議を経て審議するという、実際の議会と同様の手順をとっている。これは、「人と関わり、社会とつながる力」を育てることを目指し、公民科で学んだことを実践的に生かすように開発したプログラム。「自分寄りに軸があるキャリア教育と、社会寄りのシチズンシップ教育。両方が融合されていく教育を考えていきたい」(黒崎先生)と、同校では、今年度以降も取り組みを強化していく考えだ。

実践のヒント
教諭 黒柳幸子先生
教諭 黒崎洋介先生

これまでに習得した「型」を
実践する体験学習です

◎新しい取り組みですが

手応えはありますか？

生徒たちの社会に対する関心が高くな

ります。「投票率が低い」という教科書の記述よりも、実際の選挙を活用して模擬投票を行い、現実に行っていることとして投票率の低さを知ったほうが、リアルに問題をとらえられます。事後アンケートでも「政治に関心を持った」「自分は選挙に行きたい」などの回答が多く見られました。学校で学ぶことと実際の社会の動きが繋がっていることを、生徒たちが実感できる素晴らしい教育だと感じています。(黒柳先生)

◎より効果的に実践するポイントは？

本校では総合学習で話し方や聞き方、KJ法やロジカルシンキングなどの考え方を段階的に学習。これらの基礎的・基本的な技能を「型」と呼んでいます。例えば、模擬議会の場合、総合学習で型を習得し、科目(現代社会)で知識を習得し、その後、模擬議会という活用・探求学習に取り組みという一連の流れを大切にしています。これにより、どの生徒も参加しやすくなるうえに、さまざまな教科での汎用性が高くなると考えています。(黒崎先生)

◎実践したい学校にアドバイスを

すでにあるプログラムをそのまま取り入れるのではなく、専門家の知識なども活用しながらそれぞれの学校の実情に合わせてアレンジを。今年度の参議院選挙は、リアルな教材でシチズンシップ教育を始める絶好のチャンスだと思います。(黒柳先生)

社会性が身につく学習活動



1学年4クラスあるが、必ず各クラスで講演してもらうよう依頼。ゲストにはパワーポイントで資料を作ってもらう

中学2年「公民」の1年間の流れ
(単元とゲストスピーカーによる授業)

1学期	ガイダンス
	近代民主主義
	日本国憲法の基本原則
	基本的人権とは?
	平等権
	自由権
	社会権
	朝日新聞の記者 / 世の中で起こっていること〜裁判を通して〜
	参政権
	新しい人権
	弁護士会 / 憲法について
	国会
	選挙管理委員会 / 選挙の実務
	選挙制度
	内閣
裁判所	
地方自治	
ハンセン病患者の方 / 平等権、請求権	
地方自治	
日本経済の歴史	
消費と貯蓄	
消費者の権利と保護	
東京都消費生活総合センター(明治大学落語研究会OB) / 出前寄席(憲徳商法について)	
東京都消費生活総合センター / 悪質商法被害防止講座	
流通のしくみ	
生産のしくみ	
価格の決定	
公正取引委員会 / 「市場のレフリー」としての公正取引委員会	
2学期	政府の役割(税金)
王子税務署 / 税金とは何か、税金の種類と税の役割、日本の財政	
政府の役割②(少子化)	
政府の役割③(社会保障)	
ファイナンシャルプランナー / 社会保障制度	
政府の役割④(財政政策)	
NPO法人自立生活サポートセンター・もやい / 生活保護について考える	
金融	
労働基本権	
みずほ銀行 / 金融の働きについて(実際の社会ではどのように銀行業務が行なわれているか)	
東京労働局 / 労働基準法など、働く人の権利について	
平和主義	
社会保険労務士 / 働く際のトラブル、解雇の問題など	
国際政治	
アムネスティ・インターナショナル日本 / 人権問題について	
ワールド・ビジョン・ジャパン / 世界の子どもたちのこと、ワールドビジョンの働き、一人一人にできること	
国際社会	
日本の農業を考える	
NPO法人「コミュニティスクール・まちデザイン」 / 遺伝子組み換え食品、ホストハーベスト農業など	
国際経済	
ビデオ=フェアトレード	
フェアトレードラベルジャパン / 南北問題の解決策	
環境問題、エネルギー問題	
日本ナショナルトラスト協会 / 環境保全、ナショナルトラスト運動の概念・運動の内容など	
3学期	

※ ■はゲストスピーカーによる授業

case.12

社会との接点を探るため
中学公民で1年間18組もの
ゲストスピーカーによる授業

東京都私立 聖学院高校・中学校

School Data

1903年創立 / 普通科 / 生徒数927人(男子のみ) / 進路状況(2012年度実績) 大学80.1%、短大0%、専門学校2.0%、留学3.1%、就職0%、その他14.8%

中高一貫校である聖学院高校・中学校の社会科が目指しているのは、共生社会を作り上げる人材の育成。社会的関心を持ち、自分から何かを発信できるような人材を育てるにはどうしたらいいかを考え、昨年度、中学2年の公民で1年間に18組ものゲストスピーカーを招いて授業をしてもらった。例えば、税金について学んだら、次の授業で税務署の職員に話をしてもらおうというように、学習をする→学習内容に関連のある人の授業があるという一連の流れを作り、学習内容が現実の社会につ

ながつていようことを意識させるよう心がけた。当日は、単元の内容を教師が3分で要約し、45分をゲストに預ける。特に感想文を書かせたりはせず、後日の授業でゲストの言葉を引用したり、作ってもらった資料を掲示板に貼り出したりして、生徒の心に残る工夫をしている。

ゲストスピーカーは、新聞記事を参考にしたり、勉強会や研修会に積極的に参加して人脈を作るなどしてイチから探した。学年単位の講演会ではなく、必ず各クラスで授業を行ってもらうのが条件だ。一度

つながりを作れば、翌年からの依頼は簡単になる。再度依頼したいゲストスピーカーには、良かった点や改良してほしい点をその日のうちにフィードバックしている。

今年度から特別設置科目として高校2年生で「現代の社会」が始まるため、公民と同様、そこでも多彩なゲストを招き、知識の詰め込み型ではない、社会との隣接点を探る社会科教育を目指す。

実践のヒント

社会科主任 日野田昌士先生

教員は教えるだけでなく
プロデューサーの役割も

Q どのように時間を確保しましたか?

授業の精度を上げて、年間の授業計画を絶対に守るようにしました。無駄をそぎ落とすとして要点だけを伝えるようにし、その分、現場のプロの方々の話を聞いたほうが

役に立つはずと信じて時間を作りました。

Q ゲストスピーカーに交渉するコツは?

限られた予算での依頼ですから、まず、先方の話したいことを聞くことが大切です。そのうえでこちらの要望を伝え調整していきます。アポイントメントは2カ月前までにとらないと難しいです。ちなみに、いろいろ調べてみて、官公庁が派遣プログラムを持っていることがわかりました。それぞれのHPに情報が載っています。

Q 生徒は興味をもって聴きますか?

聴く心構えを持たせるために「プロに学べ、自分は素人だ」と伝えていきます。一方で、多くの機会を設けるだけでは、生徒も新鮮な気持ちをもち続けられないという反省点も。今後、グループワークを取り入れるなど工夫し、ひとつの事例から話題が広がるようなプログラムを作ろうと思っています。

case.13

授業担当者と司書教諭が連携し
図書館をフル活用しながら
情報活用能力を育成する

兵庫県私立甲南高校・中学校

インターネット環境も整った図書館を中核に据えた情報活用教育を推進している甲南高校・中学校。中学3年間の総合的な学習の時間「情報活用」で調べることや読書に慣れ、中学校のテーマ学習「自学自修」や、高校文系クラスの総合的な学習の時間「E・Study」でじっくり探究活動・テーマ研究に取り組むという流れで、自ら考え調べる自学の姿勢や、論理的思考・判断力を含めた情報活用能力の育成を目指している。特に探究活動では、興味関心のある職業分野や地域の課題など、生徒が自らテーマを決め時間をかけて取り組むため、社会への関心が高まり、その後の進路決定にもかかわってくるケースもある。

これらの学習では、司書教諭の中津井浩子先生をはじめとする、司書、司書教諭らが授業を支援する。「情報活用」では司書教諭手作りのワークシートを使い、図書館をフル活用して県調べやディベート、職業調べなどを行う。一方、各自によるテーマ研究は主に担任がみるというように役割分担をしている。そして、高校で本格的な探究演習

School Data

1919年創立 / 普通科 / 生徒数1110人(男子のみ) / 進路状況(2012年度実績) 大学90.3%、専門学校0.6%、その他(浪人)9.1%

情報活用能力育成のためのプログラム

学年	目標	カリキュラム
中1	● 情報収集力の育成 ● 読書習慣の育成	○ 総合的な学習の時間「情報活用」(県調べ、ディベート、職業調べなど)
中2	● 論理的な思考力・情報分析力の育成	○ 夏休み自由研究 ○ 「自学自修」(休日を利用して行う、各自がテーマをもって調べ学習や探究活動)
中3	● 総合的な情報活用能力・問題解決力の育成	
高1	● 情報モラル・情報スキルの習得	○ 教科「情報」
高2・高3	● 探究演習 ● テーマに対する探究活動 ● プレゼンテーション能力・情報発信技術の習得	○ 総合的な学習の時間「E・Study」※高2は文I・IIコース・高3は選択 ○ 「特別実験」※高2理数コース

と探究活動を中心とした「E・Study」が始まると、留学組を除いた1クラス30名を2人の教員が担当し、3人目のアドバイザーとして中津井先生が入る。ワークシートや資料の準備を司書教諭や司書に任せられることにより、授業担当者は探究活動の大切な要素であるフィールド活動(大学訪問、企業訪問など)にも力を入れられる。授業での活用も活発で、図書館で行われ

高2「探究演習」のワークシート

探究演習は資料にあたりながら自分の意見を作っていくためのプログラム。以下の手順のワークシートに沿って学習することで、その後の探究活動に必要な一連の流れが学べるようになっている。

1. テーマを選ぶ。2. 図書館で本を探す。3. 基本となることばを探す。4. 本から情報を得る。5. インターネットから情報を得る。6. データベースを使う。7. どんな探究活動ができるか(フリートーク)。
8. 自分の考えをまとめる。9. 小論文を書く

実践のポイント

司書教諭 中津井浩子先生

生徒が自分で学び
自分で気づけるよう見守ります

探究活動を指導する際のポイントは？
「教える」というのではなく、対話しながら生徒の自主性や探究心の掘り起こしを助

ほかの先生方と

どのように連携を図っていますか？

通常の授業でも連携ができないか、ほかの先生方の授業内容にアンテナを張ったり、目についた教材などをもとに雑談をするなど、「コミュニケーションをとるようになっています。また、生徒向けにも読書ガイドなどを発行し、図書館の利用を促しています。

る授業は年間約700時間。「先生方の業務負担を減らして、生徒との時間をもてるよう支援したい。そのために、ブレンとしたの図書館機能を強化したい」と中津井先生。生徒たちに対しては「図書館での学習を通して、情報をもっている人もっていない人之间的に差が生じるかということに気づいてほしい」とのことだ。

けるようにしています。また、本校の探究活動はフィールドワークがあるのが特徴。図書館で資料にあたれば何でも解決するとは思ってほしくありません。取材のアポ取りで断られたりすることも、生徒にとっては本当の問題意識に気づききっかけ。どんな外に出るように伝えています。

社会性が身につく学習活動

case.14

ビジネスマナーを主体的に身につけるための
キャリアステップマナー検定

広島県立広島商業高校

キャリア教育において数々の先進的な取り組みをしている広島県立広島商業高校。以前より、ビジネスマナー指導には定評があったが、2008年度より「キャリアステップマナー検定」を実施し、より指導を強化している。これは、3年生になつてからあわせて面接練習などをしなくてもいいように、より系統立てた学習・取り組みを行い、生徒が学習の進捗状況を自ら判断できるように行うもの。1学年では「校内における日常のマナー等」、2学年では「インターンシップにおける電話や企業訪問のマナー等」、3学年では「将来のビジネスシーンにおけるマナー等」と、学年が進行するにつれ検定内容は深化。学習は商業科の授業の中で行い、検定については、実技は授業中に、筆記試験は2学期の期末テストの中に組み込んで実施。合格者は掲示板に番号が貼り出され、合格証を受け取ることができる。なお、不合格だった場合は学年末に追試を受け、毎年ほぼ全員が合格している。

また、職員向けの研修で指導する側の意識向上を図る、日々の授業でもあいさつで始まりあいさつで終わることを徹底するなど、検定以外の場面でも校内全体のマナー向上に取り組んでいる。その効果は確実に表れており、同校の生徒は、就職や推薦による進学時の面接で高く評価されている。また、卒業時点の生徒の感想には、「厳しく指導されて身についた」「就職活動で役立つ」となどの意見が多いという。

なお、最近では、中学校から出前授業の依頼があった際は、中学生向けの「キャリアステップJr検定」も実施し、マナーの大切さを訴え続けている。

School Data

1899年創立 / 商業科・国際経済科・会計科・情報システム科 / 生徒数941人(男子325人、女子616人)
 / 進路状況(2012年度実績) 大学27.6%、短大4.2%、専門学校等27.2%、就職39.7%、その他1.3%

実践のヒント

商業科 緒括 主任
朝生 二弘 先生

すぐに実践することにより有意義な取り組みに

身につけたことは

生かされていますか？

本校では、毎年、模擬株式会社「広商デパート」を実施しています。これは各クラスが1店舗ずつ出店する行事で、広く地域の方々にご利用いただいています。また2



実技検定の様子。実技検定は各授業中に、筆記試験はテスト期間中に実施する

検定内容

	検定範囲	指導教科等
キャリア ステップマナー C検定	【実技】 ①制服の着こなし ②場に応じた挨拶の仕方 ③立ち姿 ④入退室の方法 など 【知識・理解】 ①制服の着こなし ②場に応じた挨拶の仕方 ③立ち姿 ④入退室の方法 ⑤言葉遣い ⑥ビジネス文書(社内文書)の作成 など	<1年> ビジネス基礎
キャリア ステップマナー B検定	【実技】 ①電話応対 ②お客様の案内・見送り など 【知識・理解】 ①敬語の使い方 ②間違いやすい敬語 ③来客席次 慶弔のしきたり ④ビジネス文書(社外文書)の作成 など	<2年> 課題研究 (インターンシップ指導)
キャリア ステップマナー A検定	【実技】 ①名刺交換 ②場に応じた対応 など 【知識・理解】 ①総合力 ②一般常識 ③時事用語・経済用語 など	<3年> 総合実践

学年では全員がインターンシップを経験します。こういった外部の人と接する体験学習で、身につけたマナーを生かしているようです。やはり、いくら検定のための学習をしても実践がなければ身につけません。実際に面接を受けたり実社会に出る前に、なるべく多くの体験学習の機会や、社会性を身につけるための機会を設けるようにしています。

検定問題はどのように作っていますか？
 実務技能検定協会の秘書検定など、既存の資格試験なども参考にしながら作成しました。商業科の教員のなかから検定担当者を4人決め、毎年見直しも行っていきます。筆記試験は初年度より大きな変更はなし。実技試験は時間がかかるため、より効率的にできるように毎年工夫をしています。

case.15

中学1〜3年生が
フェイスブックを使って
職業人インタビューに取り組む

埼玉県越谷市立大袋中学校



自分宛てのコメントが届いているか、生徒たちが緊張しながらFBを確認する。社会人とのリアルなやりとりがコミュニケーション能力の育成につながる



大袋中学校のFBのトップ画面。学校からの情報発信も頻繁に行われている



FBによる職業人インタビュー用の画面。27の職業ジャンルに分かれている

正しく使うための心得五カ条
 一 見えない、わからないのは嘘
 一 目前にその人がいるつもり
 一 自分が嫌なことは相手も嫌
 一 必要以上の情報は出さない
 一 心配・不安なことは即相談

生徒たちに教えている、FBを正しく使うための心得五カ条

他校や企業の視察、マスコミ取材など、年間4000人もが訪れるという越谷市立大袋中学校。現在ICT教育で脚光を浴びているが、かつては困難校という時代もあった。ネガティブなイメージが拭いきれない学校に赴任した前校長の大西久雄先生が、「生徒たちに自信をもたせ、地域社会と連携することで中学校が抱える諸問題を解決していきたい」と、コンソーシアム構想を立ち上げた。具体的には、ICTを授業などで活用するために大学に連携を持ちかけたり、生徒のケータイ・ネット問題に取り組むためにSNS事業者に啓発指導を持ちかけるなど、企業や大学、小学校や幼稚園などあらゆる団体とつな

がりを求めた。およそ3年で67団体とつながり、コンソーシアム「つどい」として連携。コンソーシアム事務局に旧PTA役員をコーディネーターとして配置し、校長、教頭、教務主任が運営している。同校のICT教育・キャリア教育の二環として行われているのが、フェイスブック（FB）による職業人インタビュー。生徒たちは、学校が依頼したり一般から募った職業人92人とFBでやりとりしながら職業観や生き方を考える。主に、1年生は特別活動、2年生は総合的な学習の時間、3年生は公民の授業で、年3〜4回、同じ人とやりとりする。「なぜその職業を選んだのですか」「具体的にどんな仕事をするの

ですか」：27の職業ジャンルから、生徒は興味関心があるジャンルを選び、登録している職業人に質問を投げかける。すべての職業人は、投げかけられた質問に丁寧に答えてくれる。学校に用意されているのは20台のPC。生徒はアカウントを持たず、校長先生や教頭先生のアカウントを使う。FBを正しく使うための心得五カ条を学び、質問したいことはまずワークシートに書き込み、教員の許可を得てから入力する。質問への答えは、早ければ即日、遅くても1週間後には書き込まれているという。FBの活用は職業人インタビューにとどまらない。教員志望の大学生と交流したり、登録している商社マンが送ってくれる海外の現地情報を地理の授業で使うなど、活用の幅を広げている。受験への応援や卒業のお祝いメッセージが届くなど、あたたかい交流も。ちなみにPCも、職業人をグループ分けするためのオリジナルアプリケーションの開発も、すべて同校の教育活動に興味をもつ企業から無償で提供を受けた。

School Data
 1980年創立 / 生徒数 / 377人 (男子177人、女子200人)

実践のヒント
 前校長 大西久雄先生

**外部の人との交流が
コミュニケーション力を育てます**
Q FBを使うメリットは？
 講演のように1回きりの「点」の関係ではなく、外部の人と「線」でつながります。リアルなやりとりを通して、居ながらにしてコミュニケーション力や人間関係調整力を養うことに。また、大人に見守られているということが、生徒の自信にもつながると思います。

Q 始めるにあたって苦労した点は？
 公立学校では、セキュリティの問題で簡単に無線LANでの接続ができない点です。SNSへの接続もまず無理なので、さまざまな研究費などからWiFiによる別回線を契約し、学校独自のインターネットに繋げる手段を構築しました。

Q 外部からの協力を得るコツは？
 ボランティアでお願いするのでは長続きしません。知識や技術、時間を提供してもらうかわりに、本校ではいつでも授業見学が可能など、情報をオープンにしています。また、PTAバザーでは、SNS事業者にテント出店による啓発活動を行ってもらったりもします。教育現場の情報を知りたい、ビジネスのヒントを得たい、という企業は少なくないなど実感しています。

社会性が身につく学習活動

case.16

OBの協力を得て発行する
進路通信「朝日子だより」は
活字による卒業生講話

山梨県立吉田高校

山梨県東南部の進学校である吉田高校。07年度、高校入試での学区撤廃によって、高い志望をもつ生徒が今まで以上に多く入学するようになったのを機に進路指導を全面的に見直し、改革を行った。

その中で、最も大きな取り組みが09年度より始めた「キャリアガイド」の作成だ。学校生活の心構えや家庭学習の仕方、キャリア教育の実践内容をまとめた冊子を、学年別と保護者版として制作している。

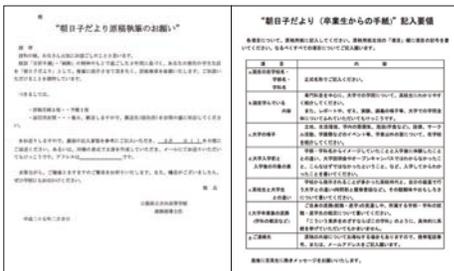
そして、改革の環として生徒の意欲を高め、かつ社会を知ってもらうため、同じ09年度から開始したのが「朝日子だより」の発行。卒業生たちに大学生活や、仕事内容、志望を実現するまでのプロセスなどを語ってもらう進路通信だ。同校の場合、交通の不便さや地理的条件もあって、生徒たちは上級学校の様子を間近で見ることができず、将来のキャリアも描きにくい。そこで先輩たちがどのように生きているか、どんな社会で働いているのかを文章で伝え、進路選択の参考にもしてもらおうと企画した。「朝日子だより」には「学生編」「社会人編」、そして「特別編」がある。「学生編」で

School Data

1937年創立 / 普通科、理数科 / 生徒数872人(男子435人、女子437人) / 進路状況(2012年実績) 大学86.0%、短大1.0%、専門学校5.0%、就職1.0%、その他7.0%

は大学生が「学びの内容」「大学の様子」「入学前と後の印象の差」「高校時代との違い」などを、「社会人編」では社会人「仕事内容」「職場の様子」「学生と社会人との違い」などを項目別に書いてもらう。「特別編」は医師や弁護士、薬剤師など難関国家試験に合格した先輩たちの手記。いずれも文章に教師が手を加えることはなく、「活字による卒業生の講話」となっている。生の声だけに生徒の心に響きやすく、このメッセージを参考かつ励みにして、目標を立てて勉学に取り組み生徒

執筆依頼のフォーマット



「朝日子」とは校歌の最初に出てくる一節なので、同窓生には馴染みのある言葉。「朝日子だより」の執筆依頼は質問も用意してあるので書きやすいようで、最短で一週間、遅くとも1カ月で返信してくれるそう



朝日子だより。現在、「学生編」を12号、「社会人編」を11号、「特別編」を3号発行。同校のサイトからも閲覧できる。これは今年の卒業生からのメッセージ

も多い。同校では生徒把握を目的に「家庭学習時間調査」を行っているが、平均して学習時間が少なくなる時期を狙って「朝日子だより」を教室に掲示し、生徒のモチベーションアップに活用している。さらに、前述の「キャリアガイド」には執筆協力してくれた卒業生リストを掲載。気になる先輩の手記は、担任か進路指導部に入れば、生徒はプリントしたものを手に入れることができる。HRで進路指導の一環として活用している担任もいるそう。

実践のヒント

進路指導部 進路指導主事 長田 茂先生

中学生が読んででもわかる文章で書いてもらっています

執筆者はどう選ぶのですか？

当初は、私の教え子で頼みやすい卒業生に書いてもらっていました。毎年3月、卒

業生の「合格体験談」をビデオメッセージとして収録しているのですが、その撮影の際、3年後、5年後も後輩に生き方を語ってほしいと伝えておくことが、この先の執筆依頼となっています。卒業生自身、先輩の「朝日子だより」を読んで学習を頑張ってきた面もあるので、それを書くことを誇りに思ってくれています。事実、「朝日子だより」のおかげで卒業生とのパイプが強くなり、職業人講話や合格体験の講話などに来てもらいやすくなりました。卒業生も一度文章にまとめてほしいか、こちらの意図を汲んで生徒に話してくれます。

読んでもらうための工夫は？

執筆依頼時、「中学生に伝える気持ちで書いてほしい」と言います。卒業生からもらった原稿をレイアウトするのは、高校生の感性に近い人がいいだろうということ。若し教師が担当。わかりやすく楽しく誌面を構成してくれるので、多くの生徒がしっかりと読んでくれます。

キャリアガイドの改訂版を出すのも大変な作業。先生方の協力体制は？

生徒全員に進路実現をってもらうために必要なことだととらえ、全面協力してくれます。国公立大の合格発表後、「3年の担任を囲む会」といって、3年の担任の経験談を聞く機会を設けています。それによつて情報共有できていることも効果的な進路指導につながっています。